

平成31年度 医療分野の研究開発関連予算のポイント

健康・医療戦略推進本部の下で各省が連携し、医療分野の研究開発を政府一体で推進。
 健康・医療戦略※1、医療分野研究開発推進計画※2の実現を図る。
※1:平成26年7月閣議決定、平成29年2月一部変更
 ※2:平成26年7月本部決定、平成29年2月一部変更

	平成31年度決定	平成30年度当初	対前年度	
			増▲減額	増▲減率
日本医療研究開発機構(AMED)対象経費	1,271億円 <small>(文608、厚474、経184、総5)</small>	1,261億円 <small>(文603、厚470、経183、総4)</small>	+11億円	+0.9%
インハウス研究機関経費	764億円 <small>(文262、厚417、経85)</small>	759億円 <small>(文260、厚414、経85)</small>	+5億円	+0.6%

- ▶ 上記経費に加え、内閣府に計上される「科学技術イノベーション創造推進費(555億円)」の一部(175億円)を医療分野の研究開発関連の調整費として充当見込み。
- ▶ この他、平成30年度第2次補正予算に、AMED対象経費として250億円(内)、インハウス研究機関経費として6億円(厚)を計上。
- ▶ 日本医療研究開発機構(AMED)対象経費の平成30年度当初予算額は、平成31年度決定額との比較対照のため組み替えを実施している。
- ▶ 上記における計数は、それぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは合致しないものがある。

※ 精査により計数に異動が生じる場合がある。

主な取組

1. 横断型統合プロジェクト

- ① オールジャパンでの医薬品創出プロジェクト 265億円<AMED 214億円、インハウス 51億円>
 - 革新的医薬品創出に向けた研究開発の充実を図るとともに、創薬標的やモダリティの多様化に対応するための開発環境等を整備する。
 - －画期的なシーズの創出・育成に向けた研究開発の推進
 - －AIの活用による創薬支援インフォマティクスの拡充や、多様化するモダリティへの支援拡充等
 - －疾患登録情報を活用した臨床開発インフラの整備
 - －創薬標的の多様性に応じた創薬技術や開発環境の整備
- ② オールジャパンでの医療機器開発プロジェクト 124億円<AMED>(一部再掲)
 - 競争力を有する世界最先端の革新的医療機器の開発・事業化を推進するとともに、医療機器開発の企業人材育成等も着実に推進する。
 - －ものづくり力を結集した日本発の優れた医療機器等の開発・事業化の推進
 - －臨床現場における実践的な人材の育成
- ③ 革新的医療技術創出拠点プロジェクト 89億円<AMED>
 - 医療法に基づく臨床研究中核病院、橋渡し研究支援拠点を活用し、革新的な医薬品等の開発や人材育成を推進。
 - －臨床研究・実用化へ橋渡しができる体制の整備
 - －非医療系シーズの発掘・育成の促進
 - －シーズ開発を行う研究者育成や臨床研究計画の作成等を支援する生物統計家を含む支援人材の育成
 - －認定臨床研究審査委員会を中心とした多施設共同研究の研究計画書の一括審査の基盤整備を推進
- ④ 再生医療実現プロジェクト 147億円<AMED>(一部再掲)
 - 安全性確保に向けた研究開発、臨床研究・治験の活性化、臨床品質の細胞ストックの整備、iPS細胞等を活用した創薬研究等を実施し、企業等による製品化を支援し、実用化を促進する。
 - －臨床研究段階への移行
 - －再生医療/創薬の実現に資する多様な研究開発を育成・支援
 - －再生医療等の製品開発体制の構築支援
 - －データベースの国際的な利活用や国際的な規制対応が可能な人材育成など再生医療等の国際展開化を見据えた支援を開始
- ⑤ 疾病克服に向けたゲノム医療実現プロジェクト 116億円<AMED 98億円、インハウス18億円>(一部再掲)
 - ゲノム医療実現推進協議会の方針に基づいた取組を推進する。
 - －バイオバンクの整備・利活用促進、オミックス解析等を用いた健常人ゲノムデータの整備及び多因子疾患研究の推進
 - －臨床ゲノム情報統合データベースの管理運営
 - －ゲノム等情報を活用したターゲット探索・検証等基盤的研究
 - －臨床ゲノム情報を実際の診断で活用するための診療基盤整備

2. 疾患領域対応型統合プロジェクト

- ⑥ ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト 163億円<AMED>(一部再掲)
 - 医療分野研究開発推進計画の下、「がん研究10か年戦略」に基づき、基礎研究から実用化まで一体的に推進し、患者や社会のニーズに合ったがん研究を推進する。
 - －アンメットメディカルニーズに応える新規薬剤の開発
 - －患者に優しい新規医療技術開発の推進
 - －ライフステージやがんの特性に着目した重点研究の推進
 - －がんの予防法や早期発見手法に関する研究の推進 など
- ⑦ 脳とこころの健康大国実現プロジェクト 90億円<AMED>(一部再掲)
 - 国内外の連携やコホートを活用し、精神・神経疾患の克服に資する研究開発を推進する。
 - －国内外の連携やコホートを活用し、脳画像解析による精神・神経疾患の病態解明を推進
 - －ニューロンレベルでの全容解明
 - －認知症のメカニズム解明と予防・診断・治療法等の開発
 - －霊長類の高次脳機能を担う神経回路の
 - －精神疾患の客観的診断法の確立、治療の標準化及び依存症の治療回復に資する研究開発
- ⑧ 新興・再興感染症制御プロジェクト 74億円<AMED 57億円、インハウス 17億円>(一部再掲)
 - エボラ出血熱等の一類感染症等に関する研究を含む新たな診断薬、治療薬及びワクチンの開発等に資する研究を推進する。
 - －インフルエンザ
 - －デング熱
 - －薬剤耐性菌
 - －下痢症感染症
 - －エボラ出血熱等の国際的に脅威となる感染症
- ⑨ 難病克服プロジェクト 126億円<AMED>(一部再掲)
 - 希少難治性疾患領域の克服にむけて、既知の難病における治験(ステップ2)や治験準備(ステップ1)など治療法開発を目指す研究課題を推進する。画期的な臨床効果が期待できる遺伝子治療等の開発を目指す研究課題を、特に重点的に推進する。
 - －上記バランスを考慮したうえで、起点となる病態解明や有望なシーズ探索(ステップ0)への支援を強化する。